
6 フルーツ・イーター

英会話のテキストに、イギリスの食べ物をどう思うかと聞かれて答える例文がある。もちろん日本でつくられているテキストである。答えは、「なかにはおいしいものがある」、というものだ。きっと、「まずい」という答えの婉曲表現なのだろう。私は、パブの料理はそれほどまずいとは思わないので、イギリスの食べ物がまずいとは言わない。しかし、やはり時々驚くことがある。生まれてからいちばん塩辛いスープを飲んだのはイギリスだし、ふつうのコーヒーショップで超激辛のカレーを食べさせられたのもイギリスだ。味付けの幅が広いのは、事実のようだと思う。

今日は、スーパーでイチゴを買ってきた。この前からフルーツショップでイチゴを見て食べたいと思っていたので、それなりの期待があるが、不安もある。昔、ソウルでイチゴを食べて、激しく体調を崩したことがある。インドから帰ってまもなく、これまた生まれて初めてという激しい下痢に苦しめられ、点滴を受けたことがあるが、その原因の候補のひとつは、フレッシュ・フルーツジュースだ。もちろん旅行ガイドには、食べないほうが良いものの中に入っている。

イチゴというのは、食べる果汁があふれるものだ。だから、すぐ悪くなる。生鮮果実の代表とも言えるだろう。イギリスのイチゴも、同じような期待をもって口に入れた。だいたい、ものをかじるときには、おおよその堅さを予期して口に力を入れている。イチゴなどは、かなり力を抜いているわけだ。ところが、このスペイン産のイチゴは、なんと歯ごたえがあるのだ。持っても、気のせいか日本のイチゴより比重があるように思う。表面もいたって元気そうで、傷んでいる部分は見られない。色は、黒光りと言い過ぎだが、本当に元気に光っている。味は、やはり日本のものほど甘くはない。

イギリスでは、あまりフルーツはできず、多くは輸入に頼っている。日本のミカンに似たオレンジは、サツマと呼ばれていて、今日買ったものはなんと南アフリカ産だ。ナシはオランダ。ついでに野菜の産地も見てみると、インゲン豆はケニヤ、マッシュルームはアイルランド、先日は何だったか、メキシコ産のものがあつた。スーパーで売っている果物や野菜は、本当に国際色豊かだ。

ただ、やはり輸入物は農薬の危険があるそうで、そういうものを極力避けている個人商店もある。

リンゴは、いろいろな種類があるが、どれも日本ではお目にかかれないものだ。まず第一に大きさが小さい。味は、酸味がまじり、そんなに甘くない。大学生などは、みなそのリンゴを皮ごとかじっている。リンゴの違いはみんな気になるようで、旅行ガイドブックにもいろいろ書かれているが、味はおいしいという評価が多いようだ。私ももちろんおいしいとは思いますが、しかし、もし日本のスーパーに置いても、わざわざこれを選んで買っていく人は少ないに違いない。もしそうでなければ、「国光」が店先から姿を消すことはなかっただろう。

私は、まだ外国の人たちに、日本の果物の感想を聞いたことがない。私の目から見れば、日本の果物は、改良に改良を重ねた結果で、少しおいしすぎるようにも思う。場合によっては、外見を優先し、味そのものを二の次にしているかもしれない。一方、イギリスに滞在する日本人は、イギリスの果物がおいしいという。少なくともまだイギリスのリンゴがまずいと言った人には出会っていない。しかし、それがノスタルジアの一種であるのかどうか、まだ確かめられずにいる。